

ノーラエンジニアリングの 生産拠点「東北ノーラ」

ステンレス配管大手のノーラエンジニアリング（東京本社・東京都千代田区、社長・堀田幸兵氏）は、戦略商品のフェライト系ステンレス配管に対する市場の認知度が高まってきたことを受け、生産拠点の東北ノーラ（本社・福島県二本松市、社長・糸澤尚人・ノーラエンジニアリング常務営業本部長）で2017年度は生産倍増を目指す。循環式空調設備（冷水・冷却水・冷温水）や消火設備（連結送水管など）、雨水排水設備（雨水配管）、蒸気設備で伸びを見込んで、東北ノーラで能力拡充、人員増強を図る。

軽量で高耐久・

高耐震性

フェライト系ステンレス（東北ノーラの3拠点を持つ。東北ノーラは13年3月に設立）は、13年3月に設立された製造子会社で、14年度では滋賀工場（炭素）年5月に二本松工場（鋼）、愛知川工場（オ）（工場長・守沢敏夫専

フェライト系ステンレス配管



ンレス「SU430LX」と管端つば出し管継手「CFジョイント」をアレハブ加工した配管ユニット。生産拠点の東北ノーラはパイプ切断、ノーラ加工（管端つば出し加工）、



敷地内で暴露試験も行う



OJTで若手を育成

17年度、生産倍増目指す

市場での 認知度向上

務）を開設した。以来、世界で先陣を切った。フェライト系ステンレス配管の市場開発に取り組み中、専門拠点としての位置付けが鮮明になってきた。

同社のフェライト系ステンレス配管は、低炭素フェライト系ステンレス、文教施設、病院など、35件の納入実績がある。型商業施設、超高層ビル、薄肉化やサイスタウンにより大幅な軽量化が可能で、施工性も良い。「空調設備の比率を6割に高めよう」（糸澤

・高耐震性に寄与する部材であると同時に、施工者に優しい部材でもある。現在は雨水排水設備が6〜7割を占め、空調設備が2〜3割、消火設備が1割弱の構成で、17年度は現在半々だが、17年度は能力を拡充した上でフェライト系が8割を占める見通しだ。ノーラエンジニアリングで、4月には新人を迎えて25人となる。愛知

空調設備

向け増産

社長）と狙っている。北にアクセスしやすい立地を探していたが、工場進出を決めたのは東日本大震災の後だった。政府・自治体の補助金で投資負担が軽減できたことが大きい。

東北ノーラの生産構想は、震災復興を願う二本松市関係者の強い思いが背中を押した。現在の人員は23人、4月には新人を迎えて25人となる。愛知

ノーラエンジニアリングの主力工場（滋賀、愛知川）はいずれも滋賀県にあり、東日本の生産拠点は東北ノーラのみ。かねて関東と東

（谷山 恵三）